

SJ

The Safety Japan
since 1971

Close Up

クローズアップ Hondaの活動

トヨタとHondaが連携し、安全運転講習を開催!
ドライバーに二輪車の特性を理解してもらう

二輪車の事故の多くは相手が四輪車であることから、Hondaはドライバーに二輪車への理解を深めてもらう取り組みを進めている。その一環として、トヨタと連携した安全運転講習を4月13日に「トヨタ交通安全センター モビリティ(以下、モビリティ)」(静岡県小山町・富士スピードウェイ内)で開催。両社のインストラクターが協力し、受講した一般ドライバー 21名に二輪車対四輪車の事故を防ぐことを目的とした指導を行った。



1回目は右折開始後どの位置で死角にいる二輪車を発見できるか確認。2回目以降はどのようにすればサンキュー事故を防げるか考えながら通過してもらう

鈴鹿サーキット交通教育センターのインストラクターも指導に加わり、受講者一人ひとりの運転に合わせてアドバイスした

二輪車とのサンキュー事故と
右直事故の防止を講習に取り入れる

モビリティは、トヨタ自動車(株)(以下、トヨタ)が運営する交通安全講習施設で、企業・団体および個人向けの安全運転講習を定期的に行っている。二輪車対四輪車の事故をなくすため、ドライバーへの啓発活動の強化に向けてトヨタとHondaが連携したことで、今回の講習が実現した。

この講習の開催にあたり、モビリティのインストラクターは昨年10月にHondaの交通教育センターの一つ、鈴鹿サーキット交通教育センター(以下、鈴鹿)で研修を受講(2024年春号参照)。二輪車に乗車し、ブレーキングやスラローム(コーナリング)を通じて運転特性を確認するとともに、交差点での事故事例の再現や模擬体験によって二輪車対四輪車の事故が起きる原因を検証した。

モビリティのインストラクター 佐藤直人さんと大塚哲史さんは「私たちは個人のお客さま向けの安全運転講習として『総合トレーニング』というコースを用意しています。この中に、鈴鹿で私たちが体験し、感じたことを追加してお客さまに伝えようと考えました。二輪車対四輪車の事故で多いのは、サンキュー事故*や右折直進事故(以下、右直事故)です。今回はこの2つの事故を防ぐための内容を追加し、『総合トレーニング特別バージョン』として実施することにしました」と話す。

受講者に二輪車の特性を
理解してもらうために

講習の進行役を務める佐藤さんは、オリエンテーションで受講者に「今日は四輪車のドライバーである皆さんに、二輪車がどのように見えるのか、モビリティで体験してほしいと思っています。Hondaと連携して安全運転教育を行うのは初めての試みです。私たちと一緒に鈴鹿のインストラクター 出原大輔さんも指導に参加します」と説明。出原さんは「トヨタとHonda、そして富士スピードウェイと鈴鹿サーキットが協力して安全運転教育に取り組むということで、私もわくわくしています」と挨拶した。

講習は、運転席から見えない死角を受講者に確認してもらうことから始まった。特に後方の死角にいる二輪車はミラーには映らないことを強調。担当の大塚さんは「乗車する前は必ずクルマのまわりを一周して、何もなかったことを確認してから乗車しましょう。発進時や車線変更時は、ミラーの死角を直接目視することを実践してください」とアドバイスした。

そして、受講者は講習車両に乗って正しい運転姿勢を確認すると慣熟走行へ。発進しようとする際、講習車両の右後方の死角に出原さんの乗る二輪車がやって来る。受講者は右後方を振り返り、出原さんとアイコンタクトをしてから発進した。昼食をはさんで、午後は高速フルブレーキングと低ミュー路ブレーキングに取り組む。各ブレーキングのコースの間には模擬の交差点が設定され、そこを通過する際にサンキュー

Contents

- P1 Close Up クローズアップ Hondaの活動
- P3 Safety Report セーフティレポート ライダー
- P4 Safety Report セーフティレポート 若者
Close Up クローズアップ 交通教育センター
- P5 SJ Interview
東京大学大学院 教授 北村友人さん
大阪公立大学大学院 准教授 吉田長裕さん
- P6 All About SAFETY 安全をいかに創造するか
- P7 TRAFFIC SCOPE 交通参加者の行動を観察する
- P8 危険予測トレーニング(KYT)
SJクイズ



Safety for Everyone

Hondaはすべての人の
交通安全を願い活動しています。

SJホームページは

ホンダ SJ

検索

編集部:本田技研工業株式会社 安全運転普及本部内
〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1
TEL:03(5412)1736
https://global.honda.jp/safetyinfo/
編集人:高石秀明

※ご不明な点がございましたら下記までお問い合わせください。
(株)アストクリエイティブ安全運転普及本部係
TEL:03(5439)1191
E-mail:sj-mail@spirit.honda.co.jp

事故を防ぐための運転を考えてもらう(P1写真参照)。最後は二輪車の特性を理解するための交差点走行。コース内に交差点に見立てた場所を設け、受講者は自身が右折待ちをする四輪車のドライバーであるという設定で、交差点内の車両の位置に立ってもらう。そこへ二輪車と四輪車が順番に40km/hで向かってくる。受講者は近づいてくる二輪車・四輪車の速度や自分との距離を目測で判断。自身が右折することは困難であると判断する位置に二輪車・四輪車がさしかかったらストップウォッチをスタートさせ、目の前に来たところで止めてその時間を記録する。この後、受講者は講習車両で実際に右折し、インストラクターが右折開始から完了までにかかる時間を計測。右折完了までの時間は2~4秒で、右折は困難であると判断したのは二輪車の時3~4秒、四輪車は4秒だった。受講者の何人かは右折中に二輪車と急接近していたことになる。「普段は余裕を持って右折するという方も、対向車が途切れないと無理をしてしまうことがあるので注意しましょう。2秒で右折を完了できたという方も安心できるわけではありません。強引な右折をすると、直進してくる二輪車はブレーキをかけることになってしまいます。右折時は対向車にブレーキを使わせないことを意識してください。それが、やさしい運転につながると思います」と出原さんは呼びかけた。最後に、佐藤さんが「自分が事故を起こさないよう気をつけていても、もらい事故に遭うことがあります。もらい事故を避けるためには、自分が見えない危険をよく見られるようになる『心の目』を持つことが大切です。もらい事故を防ぐことは、相手に事故を起こさせないということになります。他の交通参加者のミスをかばうことができるドライバーが増えれば、交通事故死者ゼロという世界の実現に近づけると思います」と締めくくり、1日にわたる講習は終了となった。

**安全運転教育に関して
トヨタもHondaも根本は同じ**

モビリティの佐藤さんは「サンキュー事故の体験で二輪車が飛び出してこないとわかっていても、お客さまは交差点を慎重に通過していたので、私たちが理解してほしいことが伝わっていると感じました。交通事故死者ゼロは、トヨタとHondaに限らず全メーカーが一丸となって取り組むべきテーマです。私たちから始めた輪が他のメーカーに広がっていくと良いと思っています」と今回の講習の意義を話す。大塚さんは「出原さんがお客さまに指導する姿を見て、安全運転教育に関しての根本は同じだと感じました。トヨタもHondaも、お客さまに伝えるポイントは変わりません。連携をさらに深め、講習を継続していくことが重要です。その中で内容を少しずつ進化させていく必要があると考えています」と今後を見据える。鈴鹿の出原さんは「お客さまに講習を楽しんでいただけたようで良かったと思います。大塚さんがおっしゃるようにHondaもトヨタも想いは同じですから、私もスムーズに指導に参加できました。今後も、モビリティのお客さまに二輪車への理解を深めていただくために協力したいと考えています」という。以前からモビリティを利用しているという受講者に感想を聞くと、「二輪車の実車を使ってくれたので、自分が思っている以



死角確認では運転席から見えない範囲を受講者に把握してもらう



発進前に死角の位置にいる二輪車を目視で確認しているか出原さんがチェック



二輪車(写真左)、四輪車(写真右)それぞれ右折が困難であると判断する位置に来たら、ストップウォッチをスタートさせ、目の前に来たら止める。この時間は二輪車のほうが短かった



片側一車線の交差点を想定した場所で受講者に右折してもらい、開始から完了までの時間を計測



写真左から、トヨタ交通安全センター モビリティ インストラクター 大塚哲史さん、佐藤直人さん、鈴鹿サーキット交通教育センター インストラクター 出原大輔さん

上に発見するのが難しいこと、同じスピードの四輪車と二輪車では車体の小さい二輪車のほうが遅く感じることを実感できました」普段、四輪車を運転する際、二輪車の存在を明確に意識していないことに気づくことができました。多くのドライバーが二輪車の存在を意識して運転するようになれば、二輪車対四輪車の事故は減っていくと思います」と語ってくれた。トヨタとHondaが伝えたい意図は受講者に届いたといえるだろう。モビリティの「総合トレーニング特別バージョン」は9月にも開催される予定だ。

**二輪車との右直事故の危険性を
より多くのドライバーに伝える**

より多くのドライバーに二輪車との右直事故の危険性を知ってもらうため、Hondaではウェブサイトを通じた情報発信にも力を入れている。今年4月からYouTubeに公開し

ている「できるニャンの安全運転アドバイス」という動画を通じて、二輪車対四輪車の右直事故を取り上げ、ライダー・ドライバーの双方への啓発を図っている。動画では、Hondaの交通安全啓発キャラクター「できるニャン」が二輪車の死亡重傷事故が多いのは出会い頭と右直事故で、右直事故の相手の約9割は四輪車であることを紹介。そして、二輪車対四輪車の右直事故が起きやすいのは、右折車のドライバーが交差点に接近する二輪車を実際よりも遠く、速度も遅いと錯覚することがあるからだと解説している。右直事故をはじめ、二輪車対四輪車の事故を防ぐには、ライダーが注意するだけでなく、ドライバーの協力が欠かせない。Hondaは今後も、ウェブサイトやSNS、四輪販売会社(Honda Cars)の店頭を通じて、ドライバーに安全運転に関する情報を提供していく考えだ。

※ 交差点等での右折で対向車が止まり、進路を譲ってくれた場合、その対向車の死角から直進してきた二輪車や自転車と衝突する事故。

**「できるニャンの安全運転アドバイス」は
ドライバー・ライダーを対象とした
交通安全に関する情報をまとめたウェブサイト
「Honda Safety Portal」から視聴できます。**

<https://www.honda.co.jp/safety-portal/>

